

【鳥取県の全体目標】 がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する。

（令和10年度まで）

【中期目標】 安心して質の高いがん相談をいつでも受けられる

前年度の目標	第4期がん対策推進基本計画に基づく相談支援体制の早期構築とがん相談に関する普及啓発活動、相談員のスキルアップ	
	前年度Plan	前年度Act
①普及啓発：「がん相談支援センター」の周知を図るうえで配布可能で効率的なツールを作成し、院内外への広報に役立てる。		①がん相談支援センターの広報資材（全県版がん相談支援リーフレットの改訂版、クリアファイル）を県内医療機関のほか、地域や市民公開講座、がんフォーラムの研修時に配布。
②相談員のスキルアップ：相談支援部会主催の研修企画。		②電話相談事例を用いた相談員の質向上を目指した曾弾支援部会開催の研修を実施。
③鳥取県がん相談分野目標値の維持更新：認定がん相談支援センター、認定がん専門相談員の更新を行う。		③認定更新しがん相談分野目標値の維持更新を実施。
④第4期がん対策推進基本計画に基づく相談支援体制の早期構築：各施設の状況を相互共有し県内全体で早期の体制整備を目指す。		④部会や研修時に体制整備について相互共有・ディスカッション実施。

今年度の目標	がん相談に関する普及啓発活動と各がん相談支援センターの質担保・均てん化を目指す		
Plan(計画)	Do(実施)	Check(点検・評価)	Act(処置・改善)
①普及啓発 県内の「がん相談支援センター」の周知を図るうえで配布可能で効率的なツールを活用し、院内外への広報に役立てる。	がん相談支援センターの広報資材（全県版がん相談支援リーフレットの改訂版）を県内医療機関等へ送付。各施設個別実施の市民公開講座等で、広報として相談支援センター広報資材配布等実施している。その他、鳥取県立中央病院では認定がん相談支援センターとして全国のがん相談員向けの「がん専門相談員のための学習の手引き」のコラムとして、オンライン相談の状況についてヒアリングを受け、次回改訂にて掲載予定。	市民公開講座などの機会を活かし鳥取県内どこでもがん相談支援センターにつながるよう、市民や患者家族に向けて広報活動を継続できている。鳥取県立中央病院が認定がん相談支援センターとして積極的に活動されており、鳥取県の代表として鳥取県立中央病院の活動を県外の拠点病院に向けて広報している。	引き続き広報活動を継続しがん相談支援センターの周知を図っていく。各病院の実情に合わせてリーフレットの内容を適宜修正、追加する。
②相談員のスキルアップ 部会研修会を企画し、部会員同士で情報共有、知識向上できる場を確保する。	部会研修会について協議中。今年度も部会員同士が気軽に情報共有しあえるようオンラインで小規模での開催を企画している。		
③第4期がん対策基本計画に基づく相談支援体制の構築 各施設が実施しなければならない体制の整備を確認し、他施設の状況など相互共有し、県全体で体制整備を目指す。小児・AYA世代などライフステージに応じた支援体制について各施設の現状や課題、役割分担について議論、検討する。	第4期がん対策基本計画に基づいて、特に小児・AYA世代などライフステージに応じた支援体制について、R6年5/25診療連携協議会の作業部会やメール会議などで各施設の実情を共有した。	小児がん患者は都道府県拠点病院での治療に集約化されており、他施設に相談対象患者がいない状況。AYA世代の相談としてはアピアランスケアや就労支援など各施設の実情に合わせて支援している。	引き続き県内がん相談支援センター全体でライフステージに応じた相談支援を実施できるよう各施設と連携、情報共有を行っていく。
④サロン活動の再開、ピア・サポーター養成研修の企画 感染対策を契機に活動休止している施設のサロンを再開できるよう課題整理、対策検討など部会全体で協議する。今年度ピア・サポーター養成研修の企画運営を行政と協働し実施する。フォローアップ研修や活動の場の提供など体制づくりについても行政とともに検討する。	ピアサポーター養成研修については相談支援部会、行政とともに協議しておりR7年1/11(土)、3/15(土)開催予定で準備中。R5年度より鳥取大学病院、鳥取県立厚生病院、鳥取赤十字病院でがんサロン定期開催、鳥取県立中央病院はR6年6月より再開し新たなピアサポート体制の構築を進めている。また、ピアサポート団体との相互協力体制の強化として、10月より鳥取県立中央病院内で毎月1回オストミー協会鳥取県支部の定期相談会を開始した。	がん診療連携拠点病院である3病院でがんサロン再開が実現し、東中西部でサロンの利用が可能となった。東部では2か所で開催しており参加しやすくなっている。しかしまだ再開目途がたない施設も多く、ピアサポーターが活躍できる場は少ない状況。	ピアサポーター養成研修も今年度開催予定であり、サロン参加者やピアサポーター希望者の意見も参考に再開に向け検討していく。サロン設置が必須でない病院も多く、部会レベルで解決できない場合は2次医療圏毎に設置されているがんカフェやサロン同士の交流、患者会との連携など活動の幅が広がるよう協議していく。